様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２６ 年　 ６ 月 ２３ 日現在

機関番号：３４３１５
研究種目：若手研究(B)
研究期間：2011～2013
課題番号：２３７２０２１９

研究課題名（和文）甲骨卜辞から見る中国殷代文化の研究―同文卜辞を中心に―

研究課題名（英文）A Study of China's Shang Culture as Seen in Oracle-Bone Inscriptions: Centering on Identical Content Inscriptions

研究代表者
陳　捷（CH'EN, Chieh）

立命館大学・文学部・非常勤講師

研究者番号：１０４６９１８２

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　3,200,000円、（間接経費）　960,000円

研究成果の概要（和文）：　本研究は、商代の甲骨文字資料から全ての同文卜辞を見出し、綿密に整理した上で総合的に考察したものである。同文卜辞は、同一の事柄について数回卜ったことを記録した内容が同じまたはほぼ同じ卜辞である。同文卜辞を全面的に比較研究することによって、甲骨文字の共時性を考察し、文字の様相や書写習慣を年代ごとに検討し、同文卜辞における文字使用の特徴を纏め、その文法体系をも探究した。香港・奈良・台北などの国際シンポジウムや研究会で研究成果を発表し、単著『甲骨文字と商代の信仰――神權・王權と文化』を出版した。

研究成果の概要（英文）：　This study deals with identical content from Shang dynasty oracle-bone inscriptions and considers them comprehensively on the basis of a meticulous classification. The identical content of the inscriptions considered in this research refers to records of repeatedly performed pyromancy displaying identical or almost identical characters and meaning. I considered the synchronicity of the inscriptions and examined the shapes and handwriting styles of the characters in regard to each period's specificities by doing a comparative study. I summarized the characteristics of writing manner in the inscriptions and also researched the grammar system. The results of this research were presented at symposia and study meetings in Hong Kong, Nara and Taipei, and collected in a book titled "Oracle-Bone Inscriptions and Shang Religion: Theocracy, Monarchy and Culture".

研究分野：言語学

科研費の分科・細目：言語学・言語学

キーワード：甲骨文字　同文卜辞　商代文化

１．研究開始当初の背景

商代（殷代）の信仰を研究するための最も重要な基本資料は、現存する商代の文献と甲骨卜辞である。甲骨卜辞のうち、同文卜辞と呼ばれるものがある。同文卜辞は、同一の事柄について数回卜ったことを記録した内容が同じまたはほぼ同じ卜辞である。商代には、同一の事柄について幾度も卜うことがよくあるので、甲骨卜辞の中に、同文卜辞が数多く含まれている。同文卜辞は個別のものではなく、複数存在するため、それらを比較することによって、商代の文字使用をはじめ多くの事実が明らかになる。

また、一部の卜辞だけでは正しい結論を得ることが難しく、全ての関連卜辞を把握して全面的に検討する必要があるため、甲骨文字資料は研究成果に関わる決定的意味を持つものである。甲骨が発見されて百年余りの間に、多くの先学が甲骨卜辞を公表するために尽力した。中国の学者のみならず、林泰輔・貝塚茂樹・伊藤道治・松丸道雄諸氏は日本に所蔵される甲骨をそれぞれ公刊して、甲骨学研究に寄与するところが大きい。

しかし、今日まで甲骨卜辞の著録書が 100 種くらいに上り、10 万片以上の甲骨が公表されたと言われているものの、数多くの同文卜辞が各種の著録書に散見し、それらを効率的に利用することができない。代表的な甲骨拓本を収録した『甲骨文合集』（中華書局、1978-1983 年）や『甲骨文合集補編』（語文出版社、1999 年）では、一部の同文卜辞がまとめて著録され、ある程度分かり易くなった。ただ、大きな選集としてこの二書は、同文卜辞のみを収録したものではなく、それらを十分に整理しておらず、相当数の同文卜辞はまだ散在しているため、決して利用し易い資料とは言えない。しかもこの二書の収録対象外となった『小屯南地甲骨』（中華書局、1980、1983 年）やその後公表された『殷墟花園莊東地甲骨』（雲南人民出版社、2003 年）など重要な著録書には、大量の同文卜辞が含まれており、しかるべき整理が殆どなされていないのである。

一方、同文卜辞に関する研究成果では、胡厚宣氏の論文「卜辭同文例」（1947 年）が初めての名作であって、その後、張秉權氏が研究を深め、数編の論文を発表した。両氏は同文卜辞の類型やそれらの特徴について検討し、具体例を挙げて論述した。最近、ごく一部の同文卜辞に限定した断片的な個別研究はあるものの、全ての同文卜辞を視野に入れた全面的な研究は未だ不十分であり、解明すべき問題が多く残されていた。

そこで、先学の研究成果を踏まえ、私のこれまでの研究の延長線上に企画するものとして、同文卜辞に関する調査・整理と総合的研究を行おうと考えた。

２．研究の目的

本研究は、現在公表されている商代の甲骨文字資料を精査し、その中から全ての同文卜辞を見出し、必要な関連情報をまとめて綿密に整理した上で、これらの資料を用いて総合的に考察したものである。本研究は、約 1000 組に上る同文卜辞を丹念に整理し、総合的に考察することによって、甲骨文字・文法及び中国古代の占卜制度に関する研究の新展開を目指している。

これらの甲骨を全面的に調査・整理し、できるだけ綴合し復元することによって、甲骨の史料価値を高めてきた。これまでの甲骨学研究の成果を踏まえて、正確な釈文を作成し、時代と内容によって分類し、著録履歴や一字索引をも作り、トータルの情報を纏めた。

本研究は、個別の卜辞の検討に止まらず、複数の同文卜辞を比較することによって、難解な文字・文法や諸制度を明らかにしようとした。同文卜辞の整理と刊行に最大の関心を払いながら、広く中国文化史全体を鳥瞰する観点から甲骨文字の諸相を考察しようと考た。

３．研究の方法

同文卜辞を主な研究対象として、これまで出版された各種の著録書を検討し、未発表の甲骨をできるだけ詳しく調査した上で、同文卜辞を遺漏なく整理した。このように関連卜辞を網羅し、正確な釈文を作り、綴合できるものを綴合し、時代や内容によって分類し、しかるべき出典を詳しく挙げ、索引を作り、同文卜辞に関するデータベースを構築した。

一組の同文卜辞について、出土場所の特定や内容上の特色などに留意し、一つの甲骨群として考察した。同文卜辞を全面的に比較研究することによって、甲骨文字の共時性を考察し、文字の様相や書写習慣を年代ごとに検討し、未解読の文字を慎重に考証し、その文法体系をも探究した。更に出土場所を特定し、殷墟遺跡を積極的に踏査し、殷代の占卜機関や関連制度を考察した。

４．研究成果

初年度はまず研究資料の収集から始め、先行研究の成果を広く集め、深く理解し、正確に把握した。『甲骨文合集』・『小屯南地甲骨』・『英國所藏甲骨集』・『甲骨文合集補編』・『殷墟花園莊東地甲骨』・『殷墟甲骨輯佚』などの甲骨著録書を丹念に調べ、全ての同文卜辞を抽出し、データベースの基本資料を蓄積した。

このような作業と共に着実に研究を進め、一部の成果を纏め、2011 年 12 月、香港浸會大學の「簡帛・經典・古史」國際論壇（「簡帛・経典・古史」国際フォーラム）にて「從甲骨卜辭的驗辭看商代的神權政治」と題する報告を行った。

そして同文卜辞の総合的研究Ｉとして、甲骨文字の研究を行った。董作賓の断代基準によって、卜辞を五つの時期に分けることができるが、近年よく使われているグループ分けの手法を使えば、甲骨文字の筆跡によって卜辞をいくつかのグループに分けることができる。同じ時期または同じグループの卜辞と言っても、必ずしも同年代のものとは限らず、その間に数十年の時間の幅があり得るので、時期区分やグループ分けの理論を用いても、甲骨文字の通時的な変化は検討できるが、細かい年代の特定は非常に困難である。しかし同文卜辞は同時にできたもので、そこに見られる同一文字の異なる書き方は共時的なものである。従って、同文卜辞から甲骨文字の共時性を考察することができ、それによって文字の様相や書写習慣を年代ごとに検討した。またこのような比較研究を行い、難解な文字と既知の文字との同一関係を確認し、未解読の文字を慎重に考証してみた。

また、同文卜辞を含めて文書の存在やその形態を示唆する卜辞を取り上げ、新しい視点から商代の文書行政を考察してみた。2012 年 5 月、奈良大学の科学研究費補助金・基盤研究(A)「東アジア木簡学の確立」プロジェクト研究会にて、「甲骨文字と商代の文書行政に關する一考察」と題する発表を行った。

これらの成果を踏まえて、同文卜辞の総合的研究Ⅱに取り組み、甲骨文法や占卜制度について検討してきた。一組の同文卜辞の中で、文型が異なることがあるので、このような卜辞を通して、同じ意味の文型をそれぞれ纏め、甲骨文字の文法体系を探究した。とりわけ虚字の使い方や文の構成についても、同文卜辞を比較してそれらを把握した。

また、同文卜辞に見られる商代の諸種制度はもとより、それを記した甲骨の出土場所も商代の占卜制度を示唆するものである。一部の同文卜辞がいくつかの異なる場所から出土したことから、当時は異なるところで保管されていた可能性が高い。そこでできるだけ同文卜辞の出土場所を特定し、それらの関係を整理することによって同文卜辞の作り方を考察した。同文卜辞を網羅し、その全貌を明らかにした上で、文字や文法に関する共時的研究を行い、より細かい時代的特徴をいくつか提示した。また、同文卜辞の作成の法則を見出し、中国古代の占卜制度を解明するための手掛かりを得た。

以上の研究成果を纏め、論文「甲骨同文卜辭的用字特點」を作成し、2013 年 11 月、中央研究院歴史語言研究所の「古文字學青年論壇」（古文字学青年フォーラム）にて発表した。また、2014 年 3 月、京都大学学術出版会より単著『甲骨文字と商代の信仰――神權・王權と文化』を出版した。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計　0　件）

〔学会発表〕（計３件）
①陳　捷、「甲骨同文卜辭的用字特點」、中央研究院歴史語言研究所「古文字學青年論壇」（古文字学青年フォーラム）、2013 年 11 月 25 日、中華民國中央研究院歴史語言研究所

②陳　捷、「甲骨文字と商代の文書行政に關する一考察」、科学研究費補助金・基盤研究(A)「東アジア木簡学の確立」プロジェクト研究会、2012 年 5 月 6 日、奈良大学

③陳　捷、「從甲骨卜辭的驗辭看商代的神權政治」、香港浸會大學「簡帛・經典・古史」國際論壇（「簡帛・経典・古史」国際フォーラム）、2011 年 12 月 2 日、香港浸會大學

〔図書〕（計１件）
①陳　捷、京都大学学術出版会、『甲骨文字と商代の信仰――神權・王權と文化』、2014 年、250 頁

〔産業財産権〕
○出願状況（計　0　件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計　0　件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

なし

６．研究組織
(1)研究代表者
陳　捷（CH'EN Chieh）
立命館大学・文学部・非常勤講師
研究者番号：10469182

(2)研究分担者
(　　)

研究者番号：

(3)連携研究者
(　　)

研究者番号：